

| | | | | |
|--------|--------|-----------|------------|----------|
| 4 段階評価 | 4 期待以上 | 3 ほぼ期待どおり | 2 やや期待を下回る | 1 改善を要する |
|--------|--------|-----------|------------|----------|

| | |
|--------------|---|
| 学校経営 ビジョン | 「夢や希望をもち、元気・やる気・本気、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～ 知恵、声、汗を出すことをモットーに ～ |
|--------------|---|

| 項目 | 本年度の重点目標と 目標達成のための手段 | 具体的な数値 目標等 | 具体的な取組 | 自己評価 | | 結果の考察・分析および改善策等 |
|-----|---|--|--|------|------|---|
| | | | | 取組別 | 総合 | |
| 知育 | 重点目標: 基礎・基本を確実に身に付け意欲的に学ぶ児童の育成 手段: 1 分かりやすく楽しい授業実践 2 言語活動の充実 3 読書活動の推進 4 家庭学習の充実 | 1について ○ 各人年2回の研究授業を実施 ○ すきるタイムで基礎力アップ | 1について ○ 各担任が年間2回の研究授業を計画的に行う。 ○ 基礎・基本的な学習内容を理解させるために、朝の時間に定期的に「すきるタイム」を設けてドリル学習に取り組む。 | 3. 0 | 3. 2 | 1について ○ 各担任が年間2回の研究授業を計画的に行い、それを職員同士で見合うことで、第1回授業での課題を第2回授業において改善を図りながら、分かりやすく楽しい授業を目指すことができた。 ○ 基礎・基本的な学習内容を理解させるために、朝の時間に定期的に「すきるタイム」を設けてドリル学習に取り組ませた。学年末に向けて、理解が不十分だった点を繰り返し指導し、全児童の学力向上に努めている。 |
| | | 2について ○ 話し合い活動の充実 ○ 作文・詩・俳句等の自主的投稿 | 2について ○ 主題研究において、授業で話し合い活動を充実させることと学習規律をしっかりと身に付けさせることを研究する。 ○ 宮崎日日新聞や MRT ラジオへの作文や俳句・短歌・詩、習字等の投稿を積極的に行う。 | 3. 4 | | 2について ○ 授業で話し合い活動を充実させることと学習規律をしっかりと身に付けさせることを中心に、中学校とも連携して研究することができた。 ○ 宮崎日日新聞や MRT ラジオへの作文や俳句・短歌・詩、習字等の投稿を積極的に行い、4月から50作品以上が紹介された。また、図書室に宮崎日日新聞子ども新聞コーナーを設置し、新聞への興味関心を高めることができた。 |
| | | 3について ○ 朝読書の充実（読書の記録） ○ 読み聞かせの充実（「あすなろ会」との連携） | 3について ○ 学校の図書室の本を紹介したり読んだ本を記録したりするなどの取組を図書委員会で行う。新しい本を計画的に購入するとともに小林市のSSC文庫の活用を図る。 ○ 読み聞かせボランティアグループ「あすなろ会」の協力で、朝の時間や参観日の懇談時間に、読み聞かせを行う。 | 3. 6 | | 3について ○ 図書委員会で、多くの本を読んだ児童を紹介したり、読んだ本を「読書ビンゴ」シートに記録したりすることで、読書に対する意欲を高めることができた。 ○ 新しい本を計画的に購入するとともに小林市のSSC文庫の活用を図り、児童が興味をもつ本を整備した。 ○ 読み聞かせボランティアグループ「あすなろ会」の協力で、朝の時間や参観日の懇談時間に、読み聞かせを行った。また、教師による「お話し手箱」という読み聞かせの時間を朝の活動として設定し、興味関心を高めた。 |
| | | 4について ○ 中学校や保護者と連携・協力した学習習慣の確立 ○ 学習時間：20分×学年を目標 | 4について ○ 小中合同で作成した「家庭学習の手引き」を、参観日の学級懇談や学校便りなどで保護者と児童に周知し、日々の家庭学習の見届けを行う。 | 2. 9 | | 4について ○ 小中合同で作成した「家庭学習の手引き」を、参観日の学級懇談や学校便りなどで保護者と児童に周知し、日々の家庭学習の見届けを行ったことで、家庭での学習習慣の確立が図れた。 |
| 徳育 | 重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段: 1 基本的生活習慣の徹底（須木っ子4か条） 2 体験活動と道徳教育の充実 3 ふるさと教育の推進 | 1について ○ 須木っ子4か条の実践 ・ あいさつ・ボランティア活動 ・ 始まるの時刻を守る ・ 無言の場を守る ・ 分からないと言える須木っ子に | 1について ○ 須木っ子4か条の実践を行う。 ・ あいさつ・ボランティア活動 ・ 始まるの時刻を守る ・ 無言の場を守る ・ 分からないと言える須木っ子に | 2. 7 | 3. 1 | 1について ○ 朝のあいさつと会釈については、多くの児童ができてはいるが個人差がある。 ○ 掃除や集団行動時の無言作業とボランティア活動は、態度が定着している。 ○ 授業や各種活動の始まるの時刻は意識されているが、時々、集団登校に遅れる児童が見られる。 ○ 児童への悩み事調査を毎月行うようにし、教師に相談が寄せられている。これにより問題の早期発見や、一人一人の児童の個性の把握につながった。 |
| | | 2について ○ 自立→感謝→貢献→自立の循環づくり | 2について ○ 体験学習に積極的に取り組むことで、日常生活が安心して送れることへの感謝の気持ちや職業観をもたせ、自立→感謝→貢献→自立の循環づくりを行う。 | 3. 0 | | 2について ○ 警察署、消防署、図書館、近隣のスーパーマーケット、NHK放送局、県総合博物館、宮崎市浄水場、北清ファクトリー等の見学を行った。 ○ 能楽のワークショップを10月に、鑑賞教室を1月に行った。また、一流の音楽家（ヴァイオリニスト）を招いてのワークショップも1月に行った。 ○ このように本物に触れる体験を数多くさせることで、日常生活が安心して送れることへの感謝の気持ちや職業観をもたせるよい機会となった。 |
| | | 3について ○ ふるさとプロジェクトの実施と改善 ○ チョウザメの飼育と観察 ○ 田植えから餅つきまでの一連の活動 | 3について ○ 区長会と協力して、ふるさとプロジェクトを企画運営する。 ○ 市役所担当課と協力して、飼育委員会を中心にチョウザメの飼育と観察を行う。 ○ 田植えから収穫、餅つきまでの一連の活動を地域の方々や保護者の協力を得て行う。 | 3. 6 | | 3について ○ 夏祭り、納涼花火大会、地区運動会、十五夜、ほぜまつり等の地域行事へ積極的に参加するよう呼びかけた。 ○ ふるさとプロジェクトや公開参観日では、地域の皆様の多くの協力を得ることができ、更に充実したものになった。 ○ チョウザメの飼育については、分収造林の切り出しによる水源の濁りが心配されたため、一時他の施設に移しており中断中である。 ○ 田植えから収穫、餅つきまでの一連の活動を地域の方々や保護者の協力を得て行うことで、児童は共同作業の大切さや地域のよさを体感することができた。 |
| 体育 | 重点目標: 進んで運動し、体を鍛える児童の育成 手段: 1 体育の授業の充実 2 体育の日常化 3 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進 | 1について ○ 体育の学習の改善 ○ 体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 | 1について ○ 体力テストの分析を基に、体力向上プランを作成し、体育の学習の改善を図る。 ○ 外部講師を招き、模範授業や体育実技研修を積極的に行う。 | 2. 9 | 2. 6 | 1について ○ 春に実施した体力テストの結果、体力の二極化が見られた。そこで、体育の時間や朝の活動における1分間運動で低かった種目について練習し、秋のミニ体力テストでは、記録が向上した。 ○ スイミングスクールのコーチを講師として招き水泳指導を行ったり、県立小林秀峰高校の体育振興指導教員を講師として招き、体育実技研修や3年生のマット運動の指導を行ったりしたことで、体育学習の改善を図ることができた。 |
| | | 2について ○ 外遊びの奨励 ○ 「キバツ10カード」の活用 ○ スポーツ少年団との連携 | 2について ○ 外遊びを奨励するために、「キバツ10カード」（運動場の施設及び遊具を使つての運動プログラム）を作成し、活用する。 ○ スポーツ少年団との連携を図り、運動を奨励する。 | 2. 0 | | 2について ○ 昼休みの外遊びを奨励するために、「キバツ10カード」を使って指導したが、活用は今一歩であった。 ○ 各種大会での成績を全校朝会や学校便りなどで紹介することで、スポーツ少年団の取組を称えとともに、運動を奨励した。 |
| | | 3について ○ 立腰指導 ○ 「よい子の安全の歌」 ○ 予告なしの避難訓練 | 3について ○ 全校朝会や毎時間の授業前後に立腰指導を行う。 ○ 始業式や終業式で「よい子の安全の歌」を歌う。 ○ 予告なしの避難訓練を行う。 | 2. 9 | | 3について ○ 全校朝会等において、静かに待ち、相手を見て聞く態度を指導しながら、立腰についても意識させた。毎時間の授業前後の立腰指導も継続している。 ○ 始業式や終業式で「よい子の安全の歌」を歌い、児童一人一人が健康で安全な生活を送るための意識の向上に努めた。 ○ 本年度初めて予告なしの避難訓練を実施し、有事の際に落ち着いて安全に避難できるように、意識付けと態度の育成を図ることができた。 |
| 食育 | 重点目標: 望ましい食習慣を身に付ける児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実・食育の推進 2 年3回の「弁当の日」の実施 | 1について ○ 食事マナーを含んだ給食指導 ○ eデーの計画的実施(月1回) ○ 残菜0を目指した食育推進 ○ 栄養バランスの指導 | 1について ○ eデーを毎月1回設け、食の月目標に基づいて、食事のマナーや栄養のバランスなどを担任が指導する。 ○ 月1回全校で給食を食べるふれあい給食を実施する。 | 3. 4 | 3. 7 | 1について ○ eデーを毎月1回設け、食の月目標に基づいて、食事のマナーや栄養のバランスなどを担任が指導し、日々の給食指導に生かすことができた。 ○ 月1回全校で給食を食べるふれあい給食を実施し、全職員で一貫性のある指導を行った。 |
| | | 2について ○ 5つのコース設定 「できるところから、できることから、やってみよう。」 | 2について ○ 5つのコースから自分に応じたコースを選ぶように指導する。 | 4. 0 | | 2について ○ 5つのコースから自分に応じたコースを選ぶように指導したことで、無理なく取り組むことができた。保護者・児童の感想から、児童が自ら弁当を作ることで、親子のコミュニケーションが図れたことや親に対する感謝の気持ちが芽生えたことがうかがえた。 |
| その他 | | | | | | |

| | |
|------------------|--|
| 次年度の方向性についての校長所見 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 校長として掲げた学校経営ビジョンは、様々な機会を通して児童、保護者、地域に周知されつつある。次年度は、児童の具体的な行動や姿として一層表れるようにする。 ○ 知育については、日々の授業を何よりも大切にすため、教師の一層の授業力アップを図る。また、少人数のよさを生かし、個別指導の充実を図る。 ○ 徳育については、心に響く指導を行うため、本物にふれたり家庭・地域と連携したりする取組を、より一層積極的に行う。 ○ 体育については、主体的に体を動かす、主体的に立腰を行う、主体的に安全な行動を取るなど主体性を引き出す取組を推進する。 ○ 食育については、学校での給食指導はもちろんのこと、「弁当の日」や家庭教育学級での料理教室の実施等、家庭と連携した取組を一層進める。 |
|------------------|--|